平成23年度経営協議会における学外委員からの意見と本学の対応状況（平成25年 3月29日現在）

［第4回経営協議会　平成24年2月3日］

意見交換における意見

議題	学外委員からの意見	本学の対応状況
男女共同参画について	卒業後の拠り所となるフォローや在学中のソフト面の充実を行うべきである。また、セミナー等を学内だけでなく学外でも行うなどして、東京海洋大学が女性の学生や研究者を必要としていることをアピールしてはどうか。	○男女共同参画推進室主催のキャリアパスセミナー等によるロールモデルの紹介 （1） 女性研究者の人材育成を目的としたキャリアパスセミナーを実施（計2回） ・ 学部生、大学院生だけでなく、本学への進学を検討している中高生およびその保護者を対象とした。 ・ 現在社会人として多方面で活躍中の本学大学院修了生にゲストスピーカーを依頼しキャリアを活かして仕事をすること等をテーマとした。 ・ 講演後に直接OGに話が聞けるフリートークを行い予定時間を超える盛況となった。また、卒業生同士、学部生、院生の交流の機会ともなった。 （2）キャリアパスセミナーの報告書及び「ロールモデル紹介」冊子の作成 ・ セミナーの報告書を作成した他、OGの講演内容や、フリートークでの質疑応答から抜粋した本学学生向け「ロールモデル紹介」冊子を平成25年9月までに作成し公表することを予定している。 ・ OGだけでなく、学内教員をロールモデルとするための取材を継続して進め、逐次、学内向けに発行しているニュースレター「海なみ」に掲載するとともに、冊子にまとめて公表する計画である。 （3）教員公募時の周知等 ・ 本学の教員は公募制であり、採用時に男女を区別しないことが前提ではあるが、H24年7月より、公募の際に、本学が男女共同参画推進に注力している旨を必ず明記している。
	日本学術振興会には、出産や育児による研究中断後の研究現場復帰を支援する「特別研究員－RPD事業」があるので、積極的に申請してはどうか。	○女性研究者支援制度の活用促進等 ・ 日本学術振興会の特別研究員制度等をニュースレター「海なみ」に掲載、教授会で報告、及び制度の対象となる女性研究者に対しての直接説明等で周知し、活用を促している。

議題	学外委員からの意見	本学の対応状況
	各自の事情によるが、男性が育児休暇を取得することも今後は考えるべきである。	〇男性の育児参加について考えるセミナーを開催（計2回） ・ 教職員を対象に、積極的に子育てに参加している「イクメン」教員に経験談を聞く等、仕事と育児の両立支援について考える事をテーマに講演とパネルディスカッションを行うセミナーを開催し、男性が育児休暇を取得するなど育児に積極的に参加することについて学内の共通理解を深めた。
	出産・育児をする世代が働きたいけれども辞めざるを得ない状況にならないように、職場に親近感・愛学心を持てるようなフォローが必要である。	〇男女共同参画推進室の取組 有能な女性研究者や女性職員の力を職場で十分に発揮してもらうため、次のような支援活動を実施している。 （1） 女性研究者、女子学生対象のキャリア・ライフ相談室の設置 ・ 研究に支障をきたすような心配ごとについての相談や、研究と家庭生活とのバランスをとるための悩みごと等を気軽に相談できる場所として機能している。 ・ 女子学生が自分の将来を計画する際に、女性特有のライフイベントとの関わりをどう捉えるかについてアドバイスする場所，女性研究者とともに研究する環境にある男性研究者の相談に応じる場所ともなっている。 （2） 研究者、学生、職員向けに、ランチセミナーを開催（月2回） ・ 交流会の場としても定着してきており、研究者と職員の壁を越えたネットワーク作りに貢献している。 （3） ホームページ『海なみnet』の公開及びニュースレターの発行 ・ 学内教職員への男女共同参画に関する意識改革に向けての啓蒙活動として実施している。 （4） 昇任時の支援の検討 今後は、新たな教員採用だけでなく、助教から准教授、准教授から教授への学内女性教員の昇任人事の支援を検討する。 〇育児休業関連規則の改正（平成24年度） ・非常勤職員が育児休業を取得するための条件を緩和した。 ・代替職員が、社会保険制度の関係から育児休業以外の方法で休業することを希望する場合に対応するため、育児のための特別休暇（無給）を新設した。

平成23年度及び24年度経営協議会における学外委員からの意見と本学の対応状況（平成25年 3月29日現在）

［平成23年度第4回　平成24年2月3日］［平成24年度第2回　平成24年10月1日］

意見交換等における意見

<table>
<tr><th>議題</th><th>学外委員からの意見</th><th>本学の対応状況</th></tr>
<tr><td rowspan="3">年次報告書について</td><td>（全体の構成について）
・年次報告と財務報告の関連を示すような内容をもう少し増やしてはどうか。
・多くの言葉を詰め込んだページと余裕のあるページが混在しているため、全体的に統一したバランスを考えてはどうか。</td><td rowspan="3">平成22年度の年次報告書に対する学外委員からの意見について整理した後、各原稿作成担当者に周知し、平成23年度年次報告書作成に当たっては、以下のとおり編集内容等の改善を行った。

【改善内容】
（全体の構成について）
・　年次報告と財務報告との関連性をもった表記とする視点から、財務報告に本学の教育研究活動等と関連付ける説明を加えた。
・　文章、写真・図表、余白について統一感を重視した。
（年次報告編について）
・　ステークホルダーである受験生、保護者及び卒業生に対する情報提供の充実について、大学院生に関する情報を追加するとともに、より詳細な情報を提供するためのホームページアドレスを統一的に記載した。
・　同窓会及び同窓会からの学生表彰について記載した。

（財務報告編について）
・　国立大学法人に係る一般的な説明と本学に関する固有の内容との記載バランスをとるため、本学に関する情報を充実させるとともに、経年変化、資金の流れ等をよりステークホルダーに対して分かりやすい内容とした。

その結果，次に発行した平成23年度の年次報告書に対しては，学外委員からは，改善が図られたことが認められるとのコメントがあった。今後も学外委員の意見を聴取しつつ，さらに改善を図ることとしている。</td></tr>
<tr><td>（年次報告編について）
・就職支援について、大学院修了者の就職先も示してほしい。
・受験者・保護者、卒業生、企業等、地域社会に分けられてはいるが、さらにより詳細に知りたい人の為の情報（ホームページアドレス等）が書かれている場合と、無い場合がある。これはあくまでも入口であるとすると、その先の情報の取り方に関しては　統一して示した方が親切である。
・卒業生向けのページに同窓会の紹介をいれてはどうか。</td></tr>
<tr><td>（財務報告編について）
・経費の状況については図表やポイントとなる説明が入っていてわかりやすいが、一般的な説明が多く、東京海洋大学に関する具体的な記述が少ない。
・大学を運営する資金はどこから入って来て、どのような区分に使われるかの概要の説明があるとより分かりやすい。</td></tr>
</table>

平成24年度経営協議会における学外委員からの意見と本学の対応状況（平成25年 3月29日現在）

［第1回　平成24年6月13日］［第2回　平成24年10月1日］［第3回　平成24年12月14日］［第4回　平成25年2月8日］

意見交換等における意見

議題	学外委員からの意見	本学の対応状況
東京海洋大学の将来構想の検討について	（検討方法等について） ・時々の社会の意見に左右されすぎないことも必要である。 ・社会的要請に応えていることが外部に見えるようにすべきである。 ・歴史的観点から社会の変化を認識し、本質的な価値観に基づく判断をすべきである。 ・自己点検をした上で、学内者で十分な議論をすべきである。 ・将来構想の立案に、外部有識者の委員会を作ったり、講演してもらうなどして、意見を採り入れてはどうか。	（検討方法等について） ・　将来計画委員会を計16回開催し、学外委員からの意見を踏まえ、将来構想の検討を行った。 ・　検討の過程において、志願者数や就職状況、受託研究等件数及び特許申請件数等の教育研究に関する客観的データ資料を整理し、自己点検を行った。 ・　学外委員による意見に加え、海洋基本法及び海洋基本計画等の法令・計画等により社会のニーズを把握するとともに、本学卒業生である上場企業役員等へのアンケートを実施するなど、外部有識者の意見を採り入れつつ本学への社会的要請等の把握に努めた。
	（検討の方向性について） ・教養教育を重視し、充実させるべきである。 ・海、自然に学ぶことが重要である。 ・グローバル人材の育成に期待している。	（検討の方向性、強み、特色、社会的役割等について） ・　検討の結果、将来構想の方向性を定め、今後実現のための案を検討することとした。また、社会的要請を踏まえて本学が強化すべき事項について検討することとした。
	（強み、特色、社会的役割等について） ・東京商船大学と東京水産大学が統合して東京海洋大学となったことのメリットを見出す方向で検討すべきである。 ・海洋政策文化学科、海洋管理政策学専攻の充実を図るべきである。 ・海洋の総合的管理（沿岸域、離島の保全・振興を含む）の分野で先導的役割を果たすべきである。 ・海洋に関する既存産業を伸ばし、新規産業を創出することに貢献してほしい。 ・海洋資源、医薬品原料の課題、世界的に評価の高い日本食の研究、津波対策等の安全に関する問題に取り組んではどうか。	